

# 協会けんぽ（医療分）の平成26年度決算（見込み）についてのポイント （協会会計と国会計との合算ベース）

## 〈全体の収支状況〉

- 平成26年度は収入が9.1兆円、支出が8.7兆円となり、収支差は3,700億円となりました。

## 〈収入の状況〉

- 収入は前年度から3,700億円の増加となりました。収入増加の主な要因は、最近の景気回復基調から保険料を負担する被保険者の賃金が上昇していることに加え、被保険者が増加したことにより「保険料収入」が増加（2,500億円）したほか、法令に基づく納付金が国（特別会計）に納付されたこと等により「その他収入」が増加（900億円）したことによるものです。

## 〈支出の状況〉

- 支出は前年度から1,900億円の増加となりました。支出増加の主な要因は、加入者の増加や1人あたり保険給付費が増加したことにより、「保険給付費」が増加（約1,800億円）したことによるものです。
- また一方で、高齢者医療に係る拠出金については、前年度までの大幅な増加から一転して横ばいにとどまりました。しかしながら、拠出金の総額は3.5兆円と支出全体の4割を占めており、重い財政負担となっています。

## 〈収支差拡大の要因等〉

- 26年度の収支差（3,700億円）は、25年度よりも1,900億円増加しました。収支差が前年度から拡大した主な要因は、
  - ① ここ数年、2,000億円～3,000億円増加してきた高齢者医療への拠出金が、一転して横ばいに留まったこと
  - ② 保険料収入等のほかに1,000億円の単年度限りの収入があったことによるものです。しかし、医療費の伸びが賃金の伸びを上回る状況は依然として続いており、協会財政の赤字構造は解消されていません。
- なお、法令上、協会は保険給付費や拠出金等の支払いに必要な額の1か月分を準備金として積み立てなければならないことが定められていますが、26年度決算（見込み）時点においては、1.6か月分の準備金を確保できる見通しとなりました。